心をひとつに

秋田県人会
福　岡

題字：ばんば三郎

全国県人会ブロック代表者会議のご報告

県人会ネットワーク化事業、全国県人会ブロック代表者会議出席。11月20日、秋田ビューホテル

北海道から九州沖縄まで、全国6ブロックから18人が参加。秋田県は佐竹敬久知事以下、19人。
知事挨拶は、人口減少が続く中で、仕事作り、移住・定住、少子化、地域社会の形成の4本柱の政策を進めている。全国の秋田ゆかりの方の力を借りたいと発言。
島崎正美・地方創生監が、日本創生会議は、秋田県の25市町村の内、消滅しないのは、大潟村だけと推計した。こうした推計を打破する為、人的ネットワークを活用したいと発言。

続いて、九州沖縄ブロックは、各ブロックの活動状況発表のトップバッターに指名され、①9月から始めた会報や、②会員掘り起こし、③各同窓会との連携、④東北芋煮会でのキリタンポ鍋、⑤樺細工修業を目指す島根の青年などの報告を通じて、県人会の活動が刺激を受けていると報告しました。
予定された意見交換の時間は取れませんでしたが、移住・定住・長期滞在のアンケート調査の途中経過を報告しました。アンケート配布140人中、42人が回答し、いわゆる2地域居住には、半分の22人が関心を示し、移住・定住・長期滞在に向けた格安モニターツアーにも、10人が参加すると答えました。
アンケートは、九州沖縄ブロックだけの取り組みです。この後、近畿、東海、ブロックが発表して、佐竹知事が引き取り、みちのく夢プラザでの日本酒が素晴らしい売れ行きであることや、交流推進員の藤井さんが紹介した樺細工修業希望の青年に角館出身としても、大いに期待されました。

首都圏からは、7人が発表し、100万人という秋田ゆかりの方に向けて、高校・大学の同窓会活動と連動させていると報告されました。
東北や、北海道ブロックからも、秋田の教育力を活用していることや、県人会の入会資格を秋田出身に限らず、秋田に興味を持つ方すべてに広げている実例、福島の大学で秋田出身の教員が里帰り就職を勧めている実例などが報告されました。佐竹知事からは、観光面で、景観だけの十和田湖が厳しい現状にあり、縄文遺跡など、歴史文化遺産に目を向けていると説明されました。予定された2時間を30分以上超え、懇親会でも議論が続きました。（文責、中村靖）

沖縄・秋田県人会　木村会長から頂いた泡盛

沖縄訪問記

11月11日～12日、沖縄を訪問した。
沖縄・秋田県人会の木村昭男会長と面談。
発足から30年、最盛期の昭和50年代には70人の会員がいた。
現在は、沖縄本島の35人が名簿登録。
毎月1回の例会と1月第3土曜日に新年会を開催。
年会費は3000円。年2回、地元紙に無料広告を掲載している。
高齢化が進み、会員数も減少傾向にあり、本島の北部などからの参加が減っている。
全国ふるさと会（幹事、栃木県出身者）や、沖縄・芋煮会（地元のボランティア主催）が同じ11月29日に別の会場で開催される。

秋田大学同窓会・北光会、名護宏雄・理事らと意見交換。
沖縄在住の同窓9人の名簿を沖縄・秋田県人会へ提供。
今後は秋田県人会への活動に参加する。
名護理事は沖縄を代表するIT企業の経営者、秋田出身の若者が沖縄の大学を卒業した際、採用した。
この若者は、5年ほど勤務し、秋田の家業を継いだ。
㈱エムアンドエムで秋田のコメ、乾燥納豆などを沖縄を含む国内外に移出・輸出している。横手市の土木事務IT企業「渡敬」とは協業関係にある。

新会員の情報提供、高校卒業名簿から1名、藤井さんの情報から2名、いずれも本人の了解を得て、沖縄・秋田県人会へ。
具体例から、親の介護で6年間、秋田に帰省した。
兄弟は盛岡、仙台に居住。八郎潟町出身だが故郷は嫌いだった。しかし、運転免許を取得し、ヘルパーの資格を取って車で秋田を回っていて、故郷を再発見した。
72歳1人暮らしの男性。
沖縄を選んだのは暖かいから。
タイと比較し沖縄を選んだ。中学から野球をしていて、沖縄でも還暦野球に参加している。体が動かなくなったら、秋田か仙台に帰る。

お会いした方、敬称略で、松本嘉道、名護宏雄、阿嘉宗保、西平守伸、木村昭男、本間文子。
移動手段：那覇空港からレンタカー、糸満市兼城～浦添市伊祖～那覇市安謝～那覇市安里に投宿、那覇市案里～那覇空港、走行距離111キロ。　（文責、中村靖）

五城目町の鈴虫が展示されている
『カフェスモールワールド』
沖縄県那覇市牧志3-2-10 那覇てんぷす館 1F